

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000058		
法人名	(株)ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	江別ケアパークそよ風 グループホーム いしかりユニット		
所在地	北海道江別市1条3丁目12-2		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000058-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①コロナウイルス感染防止により外出は実施出来ていないが、塗り絵や出前レク、室内行事やご家族様との面会等により生活にメリハリをつけて楽しく過ごして頂いている。
 ②慢性的な人員不足が継続しているが有料、デイサービス、ショートステイの部署間で支援体制が図れている。
 ③入居者様の受け入れについても当社独自のワンストップサービスを利用しグループホーム、有料、デイサービス、ショートステイの部署間で連携しお互いの情報共有し利用へ繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

① ホームの環境等：江別駅から徒歩5分、交通至便。ホームは3階、2ユニット。各種多様な介護支援事業の併設施設。相互の介護機能の連携の有効さが特徴。家族等の支援の容易さも伺われる。
 ② アウトカム評価結果：13項目のうち1位評価5項目、2位5項目を評価。介護の質、職員の資質訓練等の高さが伺える。部署間の連携と情報交換等の共有が実効性を挙げていると思われる。
 ③ 家族との信頼性と連携等、職員は利用者の意向・生活経験等の理解を深めて、最適な介護の在り方等に柔軟に対応できる資質、心身の状況等へ迅速な対応可能な技術習得に努めている。
 ④ 地域・関連機関等との連携、関係行政等との連携は必要に応じて協議・報告され、特に、地域関連機関・組織等との連携・協力はコロナ禍が伸び、交流を制限し、内部機関連携の有効化を図っている。

4									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない			☐	4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどない			☐	4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が	69	
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共通理念を両ユニットに貼り、職員の目につき理念を共有し実践に繋げている。	家庭的環境の優位さの下に、利用者の能力に応じた自立生活の支援を目的に、職員は事業共通理念を共有して真摯な実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症拡大防止の為、会社方針に従いボランティアや地域の方々との面会禁止となっている。	コロナ禍の感染拡大は地域・ボランティア等との面会お制限を余儀なくし、社内関係機関相互の連携強化で、これらの連携の不足を補っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、会社方針に従いボランティアや地域の方々との面会禁止となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、会社方針に従いボランティアや地域の方々、密な会議の禁止となっている。ご家族様には議事録の発送と会議が出来ない旨を話しご理解頂いている。	運営推進会議はコロナ禍で、職員中心に事業展開実績等の課題を検討し、この困難な事態対応に処している。関係者にはこの事情の理解を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な書類を提出する際にケアサービスの取り組みを伝えている。	行政との情報交換は、この困難な事態を踏まえて、行政の指針を得るほか、必要最小限な報告対応に留めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ【身体拘束について】の研修を行ない、具体的な事例を出し説明している。	定例の身体拘束会議等では、事例等の研修手法に応じた機会を提供するなど、職員の基本的な資質向上の課題対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ【虐待について】の研修を行ない、具体的な事例を出し説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行なう際に、十分な説明を行ない可能な限り理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、会社方針に従いボランティアや地域の方々、密な会議の禁止となっている。ご家族様には議事録の発送と会議が出来ない旨を話しご理解頂いている。	利用者の声、家族の意向を柔軟にかつ意味深く受け止める姿勢は最も重要な基本事項と理解している。アウトカム評価の結果はその事実を示す。コロナ禍で面会・会議等が制限を余儀なくしていることから、関係者にはその理解に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議にて職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。	月例の会議では職員の其々の職位、専門性に応じた意見を聴取して、組織的に共有するなど、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の業務実績・シフト予定を確認し職員一人一人の勤務状況等を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務割振りチェックシートにて職員の力量を把握し、月に一度の全体会議にて、研修がある事を伝え、参加者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症拡大防止の為、禁止となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際に、ご本人様への声掛けを行ない不安な事や要望を聴き可能な限り対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、不安な事や要望を聴き可能な限り反映していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の段階で、必要な介助具や支援を見極めご家族様へお伝えし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り、食器拭きや洗濯物たたみ、テーブル拭き等を行って頂き役割を持って頂く。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様に特変があった時等、状況をお伝えし考えを共有しご本人様を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、ご家族様の訪問に対しては事前予約制で尚且つ検温、消毒を徹底し、15分の面会で対応している。	馴染みの最も関係深い家族等の対応には、事前予約・検温・消毒等を徹底。15分面接など厳しい対応で、利用者保護に万全を期している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の関係を把握し、1人が孤立しない様に職員が声掛けを行なったり、仲介に入り支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に実施はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にご本人様の思いや要望を把握し、検討を行っている。	利用者の平均年齢86.8歳、半数が介護度3以上に状態。職員は入所以来の丁寧で細かな対応により、個々の思いや意向の把握に努め、相応な支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様からお話を電話等で聴き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の状況に応じて、支援方法をご本人様に合ったものへと変更し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン変更時にご本人様・ご家族様より要望等がないか確認しケアプランに反映させている。	介護計画の変更・新計画策定は、日常の介護でのモニタリング記録等を基に、個々の最適な介護計画を創案。家族・利用者の意向を含み、介護計画者を中心に介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテに情報を入れ、日々職員一人一人が確認を行ない情報共有に努めている。又、会議にてカンファレンスを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様からのニーズがあった場合は毎日の申し送り情報を共有し検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症拡大防止の為、禁止となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、ご本人様の馴染みのある医療機関の受診を継続している。又、ご入居者に関しては提携医療機関との往診契約を結び支援している。	かかりつけ医がいる利用者には、その意向に沿った受診支援を行っている。また、医療管理も徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、他部署の看護師がグループホーム兼務として出勤している。職員は看護師に情報の共有・相談を行っている。看護師は訪問看護師等に情報を伝えて受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、口頭・書面にてご入居者様の情報を伝達している。又、入院中もお見舞いに行ける場合は行かせて頂き、状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援の指針は事業所内で十分話し合いを設け全員で同じ方針で取り組める様に医師・ご家族様との連携を図っている。	重度化や終末期対応には、事態の状況に応じて家族・医療関係機関等と協議して、最適な対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の普段の状態を把握し変化に気付ける様に日々、研鑽していける様にする。応急処置や初期対応の研修を行なっていく体制やマニュアル作りを整える。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに応じた対応と職員全体の把握と訓練の実施を定期的に行っている。	災害対応策はマニュアルにより職員の役割など、組織体制を整えている。災害の状況を想定した各種の訓練計画に基づき、消防機関と協議して定期的訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に今一度、人格の尊重とプライバシーの保護・声掛けの徹底を行なう。	職員は、福祉サービス対象者の人格や個性の尊厳を最も重要視事項と理解し、日常業務での共有課題としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で些細な事でも自己決定は本人らしい生き方に繋がる為、細かな声掛けや気持ちを汲み取れる様に支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは崩さずに個々のペースで過ごせる様に支援し強要はせず自己決定を尊重し見守る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助を行なう際に、今日の衣類を職員から提案し納得して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様一人一人の力を活かしながら食事の準備や後片付け等、可能な限り行っている。	食事メニューは色づき写真で紹介され、楽しい機会と捉え、利用者個々の状態に留意し、美味しい食事に提供に努めている。また、準備や後片付けにも参加を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様一人一人の情報をケアカルテに打ち込み状態や習慣に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様に合わせた口腔ケアを行ない汚れや匂いがしない様に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様に合わせ、排泄パターンや習慣を活かした支援を行っている。	排泄自立は利用者の願いと受け止め、個々のパターン等の共有理解に努めて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排泄パターンを記録し常に把握し、排泄の無い場合は医師・看護師に相談した上で対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にご入居者に合わせた時間での入浴を心掛けている。又、ご本人様が入浴希望される時は可能な限り入浴を行なう。	入浴支援は心身の状態維持に不可欠。利用者の気分に添いながら、楽しい入浴支援には柔軟な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様に合わせて居室やロビーにて休憩が出来る様にしている。夜間は居室の明かりの調整を行ない安心して休まれる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人一人の薬情報を個人ファイルにて職員が確認しご入居者様に合わせて服薬を行ない、状況によっては医療機関に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事・レク・趣味活動・家事活動等、個々の能力・趣味に応じ対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症に伴い室内レクに溜まっている。	感染症の拡大もあり消極的な対応を余儀なくされている。可能な限りの季節の気分を味合えるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金については施設管理にて行っているが、お金を使う機会を作って買い物や食事等も行っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る方については支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはいつでも自由に使用して頂き、趣味や読書、テレビ鑑賞等、個々の意思を尊重しながら配慮している。	居室はトイレ付き、共通の居間・食堂を中心に、自由な利用可能な設備配置。入浴等介護設備は利便性良く、温・暖管理・採光への配慮も良い。季節の応じた飾り付けなどが工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様同士で思い思いに過ごせる様にソファを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様・ご家族様には家で使っていた家具や寝具、飾り等は持ってきて頂く様にお話しし自宅で過ごしている環境作りに配慮している。そこで自分らしい生活をして頂ける様に行っている。	利用者個々の居室づくりは、家族の協力を得て、利用者個々の生活経験を活かした飾りつけや家具等を配置して、居心地良い環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・杖・歩行器を使用している方が自由に行き来出来る様な動線を確保すると共に危険回避も視野に入れ事故や転倒の無い様に配慮していく。		